

二〇一五年四月、和田忠彦所長のもと、本研究所の幹事に私を含めた新しいメンバーが加わり、本号の特集として「アジア」を軸に据えたテーマを考えることになった。通常は大きな会議以外に顔を合わせることもない、橋本雄一先生、水野善文先生と私はバーチャルな世界で雄弁にディスカッションした。「いま、アジア」「かわりあうアジア」「かわりあえるかアジア」「アジアとはどこか」「アジアとはいつか」「アジアとは誰か」といったアグレッシブなキーワードや疑問が出てきた。そこから出てきたテーマが「となり合う〈遠き〉アジア」である。「となり合う」のイメージは、朝鮮半島、中国大陸、日本列島、東南アジアゾーン、台湾、フィリピン島諸島、インドへ、ヨーロッパ大陸や南北アメリカまでというように、海や河川・山岳でつながる任意の地理空間と場所のことを想定している。また「遠き」は、それらが広範囲にわたるため、ひとつの地点⇨視点を決めた時にそこそその任意の地理空間なり場所なりとの地理関係が遠くなる、ということ、かつ、アジアという言葉と概念自体が、実は不透明と混ざり合わない「遠き」として遠くなる、というようなことを含意している。

このテーマに沿って、日本からの見方、あるいは日本と東アジアとの関係だけにこだわることなく、所員の先生方の専門のフィールドや研究の視点から垣間見える、あるいは浮かび上がってくる「アジア」について、多彩な内容の論考が多数寄せられ、大変充実した号となった。本学の総合文化研究所だからこそ編めるアジア特集号となった。労作をお寄せ下さった皆様に感謝する次第である。

また本号の完成には、細かく丁寧な編集作業をして下さった石井沙和さん、竹森帆理さん、粒良麻央さん、笹山啓さんによるところが大きい。特に石井さんは、インド系の文字、またカンボジア語の文字体系については全くの門外漢であるにもかかわらず、その研究者魂を発揮して、本誌で初めてインド系の文字を載せ、またおそらく学術誌では世界で初めてカンボジア語の長い文字列を縦書きで掲載することを可能にしてくださった。ここであらためてお礼を申し上げる。

(岡田知子)

投稿規定

1. 『総合文化研究』は東京外国語大学総合文化研究所の研究活動の成果ならびに所員の研究成果の発表のために、同研究所の責任において編集・発行される。なお本誌掲載の論文等に関しては、著者が著作権を有するが、著作権法で規定する複製権及び公衆送信権については、著者は国立大学法人東京外国語大学にその使用を許諾するものとし、本誌掲載論文等は同大学によって電子化・公開される。
2. 『総合文化研究』は原則として各年度ごとに1号を発行する。同研究所は同誌発行のために編集委員会を置く。
3. 投稿は、同研究所の所員ならびに同研究所の研究活動に寄与した者が執筆した未発表の論稿に限る。
4. 編集委員会は必要に応じて外部の者に寄稿を求めることができる。
5. 内容区分は「特集論文」「自由論文」「報告」「書評」とする。
「特集論文」：特集テーマに沿った、執筆者自身による未発表の研究論文。
「自由論文」：執筆者自身による未発表の研究論文。
「報告」：同研究所で開催した講演会・シンポジウムの内容についての報告。
「書評」：書評・新刊紹介等。
6. 使用言語は特に制限しない。ただし、印刷の都合上、言語によっては、写真製版用完全原稿を要求することがある。
7. 写真・図表等は完全原稿とし、希望の大きさと挿入箇所を指定すること。
8. 注は、後注とすること。

Trans-Cultural Studies No.19
総合文化研究 第19号

2016年3月12日発行

責任編集 岡田知子

編集スタッフ 石井沙和 笹山啓
竹森帆理 粒良麻央

発行 東京外国語大学 総合文化研究所
〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1
電話 042-330-5409
Fax 042-330-5410
Web <http://www.tufs.ac.jp/common/fs/ics/>
e-mail tufs422ics@tufs.ac.jp

印刷 株式会社アズディップ
武蔵野市中町2-5-4 君島ビル302